

バーナード・ウィリアムズの道徳批判

生の誤解としての道徳

渡辺一樹 (東京大学)

本発表の主題は、現代倫理学において重要な異端の地位を占めるバーナード・ウィリアムズ (Bernard Williams) の道徳システム (the morality system) 批判である。道徳システムとは、近代西洋道徳の中心的な思考のことである。ウィリアムズによるこの近代道徳批判は、現代倫理学において大きな影響力を持ってきたが、彼の批判には未ださまざまな不明が付きまとい、それゆえに、多くの反論を招くことになった。本発表は、ウィリアムズの批判のプロジェクトを明確化し、反論から擁護するものである。

本発表の構成は以下の通りである。まず、本発表は、道徳システムの特徴を分析する。その際には、道徳システムがいかにか義務・動機・非難を解釈するか、その解釈はいかなる意味で特別かという点から考察する。次に、本発表は、道徳システムへのウィリアムズの批判を、先行研究において広く理解される仕方でも再構成し、そのうえで、「批判の射程による反論」を紹介する。このように整理・反論を行なったうえで、本発表は、反論に回答することを目指す。まず、「批判の射程による反論」に対しては、「道徳の本性」と「実際の道徳規範」を区別することで回答する。本発表がみるところ、道徳システムは、たんなる一つの道徳規範というよりはむしろ、現実の道徳規範を駆動する「道徳の本性」として特徴づけられるべきである。そして、かかる「道徳の本性」とは、「道徳は不偏的であり、合理的であり、特別な権威を持つ」という要求のことである。最後に、この要求は全く健全であるという「道徳の眼目による反論」に回答する。そのために本発表は、この要求には本質的に問題が含まれているとするウィリアムズの議論を再構成する。すなわち、道徳の要求は、道徳心理学に関するある種の幻想に基づいており、それゆえに、インテグリティ・実践的必然性・行為者後悔といった倫理的に重要な現象を疎外してしまうという議論である。道徳システムは、例えば、「不偏的な考慮が常に行為者にとって特別な権威を持つことができる」、「道徳は常に行為者の欲求に依らず合理的である」といった道徳心理学上の幻想を抱えている。これによって、不偏的道徳は例えば、行為者の性格に依存すべき個人のインテグリティや実践的必然性を理解できず、その性質を疎外する。これらを本発表は、それぞれ「リアルな道徳心理学による議論」と「疎外による議論」と名づけて再構成する。

本発表の目的は、第一義的に、ウィリアムズの道徳批判の眼目を明らかにすることである。その際、本発表は、「道徳の批判はいかなる根拠によってなされるか」という点に注目する。「道徳の批判」は、哲学的にきわめて重要な主題である。この主題については、ニーチェやマルクスといった哲学者がさまざまな仕方でも取り組んできた。とはいえ、道徳批判のプロジェクトには、それ固有のひとつ大きな課題がある。それは、「道徳の批判をいかなる根拠で行うか」という問題である。というのも、道徳は我々の価値の中心をなすように思われ、それゆえに、道徳を、何らかの価値に依りながら批判すること、そしてその批判の言葉を説得的な仕方でも語ることは難しいように思われるからである。ニーチェが、その『道徳の系譜学』の序文で鋭く指摘するように、「価値の価値は、所与のものとして、事実として、あらゆる疑問をこえたものとして受けとられてきた」(ニーチェ 1988: 18) のである。それゆえ、道徳の批判プロジェクトは、自らの批判の基

礎をつまびらかにする必要がある。さて、ウィリアムズはこの課題に対して、本発表全体が示すように、さしあたりひとつのニーチェ的な解決を与えている。すなわち、道徳と道徳哲学は「生の誤解 (misconception of life)」であり (Williams 1985/2011: 218)、それゆえに、端的に言って、「道徳はないほうがよい (we would be better off without morality)」(Williams 1985/2011: 193) というわけである。道徳は、人間の生や心理を誤解しており、ある種の幻想にうえに成り立っている。幻想は、現実によって取って代わられるべきである。それでは、道徳はいかなる幻想を抱えているのか、本発表全体が明らかにしようとするのは、その幻想の内実である。

参考文献

- Clark, M. (2015). "On the Rejection of Morality Bernard Williams's Debt to Nietzsche." In his Nietzsche on Ethics and Politics. Oxford U. P. USA., 41-61.
- Darwall, S. (1987). "Abolishing morality." *Synthese*, 72 (1), 71-89.
- Williams, B. (1982). *Moral Luck: Philosophical Papers 1973-1980*, Cambridge U. P.
- Williams, B. (1985/2011). *Ethics and the Limits of Philosophy* (Routledge Classics), Routledge.
- Williams, B. (1992). *Shame and Necessity*, University of California Press.
- Williams, B. (1995a). *Making Sense of Humanity: And Other Philosophical Papers 1982-1993*, Cambridge U. P.
- ニーチェ, F. (1988). 『ニーチェ全集 第三巻 (第二期)』白水社。